

一九七七年二月一〇日第三種郵便物認可

発行所〓社会通信社

発行人〓滝野 忠

東京都渋谷区本町六丁目二八の二コーポ幢ケ谷九〇四 電話(03)3337714649
振替〓東京0158431 労金〓東京労金本店No1154163

FAX(03)3229915367

購読料〓月額500円 6ヵ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言■

政局の動向は社会党の再編へ……………2
社会党よ、主体性を発揮せよ……………3

——田辺指導部で社会党は解体の危機(一)——
国鉄「分割・民営化」の破綻は必至……………8

——「分割・民営化」から五年の検証——

資料1 全国大会方針の実践を求める意見書(音威子府闘争団)……………11

資料2 闘争体制強化に向けての討議資料(案)……………12

◇『社会通信』五百号に寄す◇……………14

統一戦線を求めて歴史は動く 稲村 守……………14

◇シリーズ③ 私たちの学習会 灘資本論◇……………15

資本論第二三章を学ぶ……………15

◇投稿◇ 資本主義と社会主義……………19

読者からのおたより……………21

おしらせ 『社会通信』五百号記念のつどいについて……………22

好評発売! 桐原 浩 著

紙ひとえの選択——国労鹿児島「二万分の一の記録」

お申し込みは社会通信社へ

刊社会通信

NO. 504

一九九二年五月一・二日

一九九二年五月一・二日発行
(毎月一日・二日・三回発行)

■巻頭言■

政局の動向は社会党の再編へ

問われるわれわれの基本路線と活動

三月三〇日朝刊、各紙は、衆議院群馬二区補選の自民党議席独占の記事をトップで報道している。朝日の記事に「社会党公認のため、民社党支持労組などの動きが鈍く、社会党支持層以外に支持を十分広げられなかった。参院補選では、共和汚職や佐川急便疑惑が自民党候補に響き、連合候補に勝利をもたらしたが、今回は安垣氏の除名問題などが須永氏に影響を与え、『連合効果』を生み出せなかったようだ。」とある。まるで「連合」でなければ社会党候補の勝利は、ありえないかの論調である。

自民党汚職問題追及の矛先は、安垣問題を契機に社会党に向けられ、社会党も同じ穴のむじなというムードを生み出している。国民の政治不信がおおられ、政治離れの陰で支配権力は、ほくそ笑む。権力の常套手段というけれど、マスコミを使つての攻撃は、見事に世論を操作していく。忙しさに追われる国民は事の本質を十分知ることができただろうか。期待に応え得ぬ弱点を曝した社会党は、たいへん厳しい事態に置かれることになった。

しかし、このことは、一政党レベルの問題でないことが、今後の政局の動向いかんで見明らかになるかもしれない。権力の側の切望した、社会党基本政策つぶし、体制側への取り込みが着々と成功しつつあるということだ。勤労国民の利益を代表する政党が崩壊するということとは、戦後民主主義の重大な危機をもたらすかもしれないことだ。それは、国民が社会党を見離れたすきを突いてなされるかもしれない。

その具体的動きの一つは、現在まで「連合」幹部を中心として進められてきた社民の新党結成の流れである。民社路線への迎合により、社会党は、基本政策を失い解党していくというあらずじである。権力の威を借りた幹部たちの策謀は、連合を生みだし、今またその再編組織に見あった政党ということで社会党の解体再編へと向かっている。

今一つは、構造的な支持層の崩壊で悩む自民党内部の政界再編論者たちから差し伸べられる勧誘の手である。金丸信は、「参院選が終つたら、社会、公明、民社党からも閣僚を内閣に入れて連立政権を作り切磋琢磨すればいい。その次に小選挙区制の問題、二大政党制の問題というものを考えるのが政党のあり方だ。社会党は左を切つて、自民党という名前が残らなくてもいいから、我々も一緒になって政界再編をしたらいい」といつている。その差し伸べられた手をしっかりと握ろうとするようにうかがえる田辺委員長発言は、知られている。「参議院選挙で現在の勢力比がさらに自民党少数になると。……この間、中途半端に言つたので間違えて取られているけれども、自民党と、あるどこかの小さな政党なんて無礼な言い方だけれども、それがついても過半数にならない状況ができたときには、自民党のなかでこれは容易なことでないという感覚が出てくると思うんです。そのことを我々は表に出してはいけないけれども、頭のなかにおいて、それで勝負をかけるということとは出してくるのじゃないか」。どのような「勝負をかける」のかが問題だが、衆議院で自民党が安定多数である以上「連立内閣」の可能性が高いということだ。

社会党が護憲の非武装中立、安保反対、原発反対などの党であり続けることが正しい道

である。総評なきあと、社会党とその基本政策は、労組にあつて「連合」路線と闘い続けるものにとつての灯火であることに変わりはない。その灯火すら吹き消してしまおうという攻撃が目前に迫っているのである。わが高教組路線の転換もそのような事態に対応して進められていく。「日の丸」問題に対する高教組「本部（新）見解」もその具体的な表われと考えられる。

私たちは、反戦平和・人権・社会主義をにかけて闘い続けてきた社会党がそうやすやすと権力のまえに打ち砕かれ、飲み込まれていくとは考えない。しかし、事態がここに来たつてきた以上、政局の動向いかんでは、分裂や新党結成の危険性が大きい事を考えておかなければならない。さらに警戒心をもって自らの路線を堅持し取り組みを地道に進めるし、その生きざま（運動）を守る条件作りを堅固に準備しなければならないと思うのだ。（Y）

社会党よ、主体性を発揮せよ

—— 田辺指導部で社会党は解体の危機（一） ——

社会党ではたたかえないのムードづくり

司会 労働組合の「連合」がすっかり政治づいてるネ。

A 労働組合だか政党だかわからんほどだ。

B 春闘でもっとがんばれば評価も変わるんだろうが、山岸主導のこの政治主義の破綻は意外とはやいかもよ。

C 私もそう思う。労働組合といまの連合の乖離はすごいもの。しかも、JCグループに山岸さんへの違和感が強いとの観測がある。

B それにしても連合の社会党への介入はすさまじいな。

C 社会党がだらしなさすぎるよ。社会党に主体性があるの、これじゃ自壊だ。群馬は田辺さんの地元でしょ。スキヤンダル事件があつたにせよ、あれはひどすぎる。

司会 私の知り合いに、自民党の総支部の役職員をしているのがいるんですが、「日の丸・君が代に反対」という父兄に、「社会党さんだつて今や賛成だよ」「そんな時代錯誤なこと言いなさんな」って説得してるらしい。

その自民黨員も、自党のモラル低下にはホトホトあきれているらしくって、「社会党がしっかりしてくれなくては、自民党は墮落するだけだ」と嘆いていた。

C それにしても群馬で「社会党単独候補では勝てない」との雰囲気づくりが意図的におこなわれたことは、社会党にとっては深刻な事態だよ。田辺さんにはそれがわからないのかしら。

B わかってないんじゃない。新聞の伝えるところでは、金丸さんそして山岸さんだろう。田辺さんの演説を聞く機会はみなさんより多いのだが、歴代委員長の風格がありませんね。これは他の野党党首にもいえることだろうけどね。

A 小粒（こつぶ）になったってことね。

B 永田町（国会）の論理が常識になり、国民大衆の存在が政治家から忘れられたといった方が正確じゃないかな。

A おっしゃるとおりだ。前言を撤回します（笑）。みんな自民党流になったってわけだ。

森田健作だつて!?

B みんなじゃない。スジを通して代議士も少なくない。

A だけども多くもないでしょう。「憲法を活かす会」に名を連ねる社会党の国会議員は一〇〇人強だと聞いてます。約半数でしょう。これじゃ寂しすぎます。

C 選挙運動やつてる人の気持ちも、社会党に一票投じている国民の気持ちもぜんぜんわかってないってわけね。

A そう。ヨーロッパの政党の動きをみてもわかるんだが、労働者を基盤にした政党で自壊が生まれるのは、きまってその政党のもっとも強力な支持者、政党員に士気のタルミがおこり、棄権するか、ヨリ鮮明な反権力を標榜する政党に投票するかの時なんだ。

司会 私は二〇代前半のとき、棄権するのがもっとも革新的と思っていた。だって心から投票したくなる政党はなかったもの。だけど、社会党に私の想像をこえる立派な人たちがいた。それを知って社会党に投票する意義を識ったわけだ。

前回の参院選で社会党は田さんを推せんした。投票所には行きましたが、白票です。七年の「協会攻撃」のとき、田さんは「社会党左派はガン。コバルト照射で焼きつくせ」といったお人でしたから。

共産党候補に入れようかとも思ったのですが、例の独善主義でしょ。もし「受かれば」、共産党の主張が国民に受け入れられたというに決まっています。私の票がこんな風に解釈されたんではたまりません。ですから共産党には入れなかった。カミさんは共産党に入れたようですがネ。

B あなたより立派じゃない（笑）。

司会 いま思えば情勢認識が甘かった。田さんが社会党議員以上に「憲法擁護」に熱心ですから。

B 「憲法を活かす会」、そして今度の東京選挙区問題でも、もっとも熱心な人の一人が田さんです。

A 変わるもんだね。

D 情勢の変化だよ。

A そのとおりだ。田さんにせよ国弘さんにせよ、「いつの間にか右だと思っていた自分が、最左派になっていた」ということだと思ふよ。みずからそうおっしゃってたはずだ。

地域党員はみえる運動を

A それにしちゃ、左派を名乗っていた人たちの声を聞かないね。どうしちゃったの。大衆運動の分野でもあまり姿をみない。今は舌だけの時代じゃないよ。舌と行動を一致させなくちゃ。このままではバカにされるだけだよ。

B 党建協を中心にがんばってる。だけど組織、機関中心主義だろ。なかなか外には見え

ないんだ。もっと信頼して欲しいな。

A 信頼するためには、見えなくちゃ。どこにいろかわかん人を信頼せよといったって、ぼくらのような党外の人間には信頼のしようがない。

PKO 反対署名でもいい、森田健作反対でもいい、田辺さんには社会党をまかせられませんならなおいいんだが、そんな活動を目に見えるかたちでやってくんなきゃ。私ら心情、社会党支持者には投票意欲すらわからない。だって、森田健作君は「自衛隊ボーイ」でしょう。自民党から出るのならわかる。しかし、連合候補、社会党推せんでしょ。完全に棄権ですよ。これで社会党は本当に政権をとれると思ってるの。そんなこと考えてるとすればオメデタイという他ないよ。

B そのオメデタイ張本人が田辺さんで、それを支えているのがマスコミでよく登場する「新しい社会党を創る会」の人たちだ。

A オメデタイ人を退治してくんなきゃ。このままじゃ社会党は、総評以上ののたれ死にだよ。それを左派、良心的な社会党員は知ってくれなきゃ。

司会 私も東京の住人です。投票することの意義を知ってから、社会党以外の人の名を書いたことはありませんが、今度の参院選では前回以上に社会党に投票する意識はわきました。今度はこんな事例は東京だけじゃありませんね。山梨しかり、岩手しかり、それに広島等々。自民党を助けているとしか表現のしようがありません。

社会党に識っていただかなきゃならんことは、社会党員以上に勤労大衆は意識が高いし、同時に文化的素養も高いということです。このことは、学歴の問題ではありません。生活が勤労大衆を訓練し、利口になっているということなのです。だって、農業問題を本当に勉強している人が社会党にどれだけいるんですか。彼らは真実、生きるか死ぬかの瀬戸際に立たされているんですよ。

D 農民だけじゃない。小零細企業主もそうだ。トイザらスなんてのがその典型だ。

元大幹部に意識の変化

司会 社会党にがんばっていただかなきゃならん状況はよく分かったと思う。ところで、社会党をそんな党にしたのは総評解散、連合結成でしょう。連合は何を考えてるんですか。

D 連合がどうかというより、田さんや国弘さん、あるいは連合結成に積極的に与した元総評議長さんたちの思いを考える必要もあるんじゃないですか。彼らは右といわれ、みずからもそれを自認してた人です。それが今や最左派のおもむきがある。くわしい方、ちょっと解説してよ。

B 私、元総評議長とはわりとよく行き合っんです。彼こういうんだ。「連合を左に向けることができると思ってた。しかし、それは誤りだった」と。

D 本場にそんなこといつてるの。そんな指導者が総評にいたの。労働運動がダメになるわけだ。ぼくら小零細企業主だって、総評とJC、同盟のちがいはわかるよ。だって、JC、連合はぼくらに味方しないもの。しばらくすることしか考えていない。

ぼくらが納める商品が大企業でいくらの値段がつけられていると思うの。低、中、高でいろいろだが、二、三倍から一〇倍だ。ぼくら自身が生きてかなきゃならんし、働いてく

れている従業員、家族のことも考えなきゃならん。そのため、どうやれば働いてくれる人と意志の疎通がはかれるか、大企業の横暴からどう逃れることができるかと、毎日、容易じゃないんだ。

B 連合結成から三年になるのだが、元大幹部で、「連合が結成されて、こんなに右傾化がすすむとは思ひもなかった」という人がけっこういるね。

A 自治労などでもそんな話を聞きますね。

司会 こうなることがわかってたから、ぼくらは総評解散に反対してきた。

A ようするに、幹部の人たちには大局感がないんだよね。みずから進んで勉強しようとはしないんだ。つねに支配者からつくられる常識が価値尺度なんだ。「こんなハズじゃなかった」という人は、まだ立派だと思うよ。現役を退いたから、客観的に見ることができるようになったのだろうけれど。キツイ言葉でいえば、彼らは隠居なんだ。現場を指揮できないんだ。現場からすれば、「勝手なこと言いやがって。それで苦労してるのはオレたちだ」くらいなんだ。

B しかし、左派といわれる一部の人には、隠居の思いもない。こりゃ深刻だよ。

“フアジーな連合だつて!”

司会 ところで連合は何を考えてるんですか。つい先日、六人委員会とやらが開かれ、国の基本問題についてのフリートーキングがおこなわれたと聞いています。

A 六人委員会ってなに?

C 事実上の連合指導部というわけだ。構成メンバーは山岸(連合会長)、山田(事務局長)に自動車総連会長、電機労連委員長、ゼンセン同盟会長、それに大場(日教組委員長)です。

A 旧総評を代表しているとみられるのは日教組委員長だけ?

C J C、同盟系が中心です。

A このメンバーじゃ、はじめから決論はわかってるんじゃないの。ところで、六人委員会とやらで職場の意見を反論できるの?

C そんな雰囲気は皆無らしいよ。だって、山岸さんの出身組合である全電通は昨大会で「自衛隊合憲論」に転換したし、J C、同盟は最初からそうだ。

A 「六人委員会」とやらでは何が話しあわれたの。

C 討議の中心は三つといわれている。第一に連合参議院に対する期待、第二に参院選への対応、とりわけ「連合の会」の位置づけ、第三に国の外交・防衛など基本政策の討議の進め方です。

まず「連合参議院の位置づけ」ですが、連合内に二つの意見がある。一つは「暫定的形態として受けとめている」というもの、もう一つは、「院内会派であり、四野党結束のかけ橋とすべき」というものだ。両者の共通点は「第二社会党論はとう汰されている」ということらしい。

次に「連合の会」のあり方については、これまで連合の会で立候補し当選すると自動的に連合参議院のメンバーとなっていたが、これを弾力化すべきとして検討を進めることを

確認している。キッチンとするより「非自民」としてファジーのままの方がよい」との認識からだ。

A “ファジーのままの方がよい”とはどういうこと。

C 山岸流にいえば、既成政党に選挙民は魅力を感じてない。連合がそうした選挙民の受け皿になれる。そのためには、“ファジー”の方がよいということらしい。

A いいかげんだね。

C 連合内の意見対立ではっきりした方針をうち出せないんだ。この内部矛盾をおおい隠すには“ファジー”にいくしかないというのが本音だと思う。

基本政策転換を工作

A ところで基本政策問題の議論はどうだったの？ 報道では自衛隊容認、日米安保容認と伝えられていたが。

C 具体的に容認するとの立場から論議が行われているということだ。六人のメンバーで「自衛隊・安保容認論」と意見を異にするのは、組織的には日教組だけだ。しかも、このメンバーでは大場さんも発言しにくいだろうしね。

ようするに、自衛隊のあり方については真正面から合憲か違憲かの憲法論議はしないで、自衛隊の存在を前提し、内容、つまり装備、規模などの許容範囲の論議を先行させるというものです。さらに自衛権については避けて通れないとして五月の三役会議で結論を出す他、日米安保条約は容認の立場で「軍事面から経済面にウェイトを移していく」ことで了承されました。

A 予想されるとおりですね。ところで、PKO法案についてはどうですか。

C もはやタナ上げは許されないとの立場で法案への対応を含めて連合としての最終方針をまとめていくというものです。

A PKOについては山岸さんがあちこちで発言してますね。

C 彼の主張は「非軍事で国連中心主義の立場から憲法の枠内で」というものだ。しかしこれにはゴマカシがあるんだ。各論について(1)自衛隊とは別組織、(2)文民主体だが、自衛隊の出向・休職は認める、(3)停戦監視団まで、(4)国会承認が前提、(5)国際災害救助隊とは別組織というもの。ポイントは「文民主体だが、自衛隊の出向、休職は認める」というところ。これならいくらでも現役自衛官を派遣できる。

A 参院選の動向と相まってこれから連合内のこの論議が注目されるが、今後の日程はどうなっているの？

C 五月一三日に再度六人委員会を開き、五月一四日には第二回構成組織代表者会議をやり、五月一五・一六日の二日間、泊り込みの三役会議で中間的まとめを作成し、五月三一日に中執で原案を確認し、六月四日の中央委員会で決定というものです。

(つづく)

国鉄「分割・民営化」の破綻は必至

——「分割・民営化」から五年の検証——

国鉄「分割・民営化」から五年がたった。政府・自民党はむろん運輸省やJRの官僚たちは、「成功」キャンペーンに躍起だ。「赤字がなくなった」「サービスがよかった」「旅客が伸び運賃値上げに歯止めがかかった」と。

“黒字になったって?!”、これはウソだ。国鉄時代も経営上は黒字だった。赤字にしたのは龐大な借金の利払いのためだ。しかも、過去十年、国鉄は約二三万人の国鉄労働者のクビを切り、職場から追い払った。一人あたり年間賃金を六〇〇万円とすると、一兆三八〇〇億円節約したこととなる。線路ははがされ、過疎の町は今や息絶え絶えだ。

“サービスがよくなったって?!”、接客態度もむろん重要だ。しかし本当のサービスは安全であるはずだ。その安全に注意信号が点灯し始めたと思うのは私だけか。「スーパードライバー」は時速一二〇キロで疾走し、地方線でもわずかに四、五分の時間短縮に、古い車輛がヒメイをあげる。

国鉄「分割・民営化」が“成功した”だって?!”、ウソだ。「分割・民営化」はほころびがきわだち、破綻し始めている。

「分・民」の矛盾は行革と一体

国鉄「分割・民営化」は、行革臨調そのものだ。そして行革臨調は、異常な投機をよんだ。土地、株式は急騰した。これで儲けたのは大蔵省と政府、彼らとゆ着する一部の人間だけだ。バブルである。そのバブルもはじけ、証券・金融恐慌の引金になるうとしている。こうして、行革臨調路線は全面的に破綻したのだ。

国鉄「分割・民営化」の矛盾も、予想をはるかにこえるスピードで進行中だ。“成功”とはいいいながら、ハラの中では恐怖におびえているにちがいない。

彼らがなぜ恐怖するのか。国鉄「分割・民営化」の矛盾は、日本資本主義そのものの矛盾であるからだ。「分割・民営化」の基本矛盾は(1)首切り・人権、(2)足・ローカル線切り捨て、(3)土地、(4)債務、(5)安全、(6)政治介入、(7)労務政策、(8)株式上場、(9)合理化等々だ。行革の矛盾の爆発、その典型が“バブル崩壊”だが、それは国鉄「分割・民営化」の矛盾を一気に国民的諸矛盾へと転化する。その兆しも次号で述べるように、すでにあらわれている。自民党の支持基盤そのものが動揺から崩壊への動きを加速させていることだ。

JRの動向にケチ

過去五年、「分割・民営化」の矛盾はどう進行しているのか。

第一。JRの動向にケチがつき始めたことだ。まず景気動向の変化だ。「分割・民営化」時、日本経済は不況がいわれた。しかし、誰もが予想しなかった“異常景気”となった。学生、OLまでが株というバクチに走った。儲けに儲けたのが株屋、金貸し業者たち。製造業種でも財務部が幅をきかせ、本業そっちのけとなった。浮かれた人たちが列車を利用

する。旅行熱をおおるため、新型車輛が次々と投入された。こうして旅客がふえ、JRはすっかり酔っぱらった。

異常な景気にも終わりがきた。証券・金融恐慌は一転、彼らの投資、事業計画の基礎をつきくずした。旅客、貨物の減少は必至、事業計画の見直しも必至。イの一番の検討課題が運賃値上げになることだろう。

次に「バブル崩壊」、正確には証券・金融恐慌が、国鉄「改革」最大の柱とされた債務返還計画を直撃し、政府・自民党も運輸省・JR官僚も、さきの見直しをスッカリ失ってしまったことだ。杉浦を中心とする清算事業団の幹部連中は真ッ青になっていることだろう。

彼らの目算は株式上場で一株百万は儲けたい、土地もできるだけ高く売ってというものだった。株価は崩壊、土地も。杉浦さんどうする。国民負担ではならんのでしょいうな。

さらに信楽高原鉄道事故で鉄道輸送の生命、安全にも赤信号が点滅し始めたことだ。つい先日にも山陽本線で大惨事寸前の出来事があった。余部では天から列車が降ったが、ここではトラックが天から降ってきた。友人の鉄道マニアで小企業の社長さんは、かならずデカイ事故がおきますよ。安全問題もすべてマニュアル化されているんでしょいう。そのマニュアルに人間は追いついていきませんからと心配する。

安全の基本は熟達した労働者の技量と多くの人の目。今やその二つがともに失われた。他方、「のぞみ」「スーパービューおどりこ」「スーパーひたち」はおろか、ローカル線まで最大速度でひた走る。

そして、労使関係も危機的局面に突入したことだ。JR七社中北海道、貨物、東を除き、組合が分裂した。五月には西、四国、九州、東海の新組合、それに鉄産総連もナダレ込んだ新組合が結成されるという。「分割民営化」六年めにストライキが続出したことの意味は小さくない。最大手の東でも不気味な地鳴りが聞こえる。自民党のお抱え評論家が自民党の機関紙（自由新報）で革マル排除を叫び始めたからだ。

東は旧動労がもっとも影響力をもつ会社といわれる。自民党、運輸省、JRよ、さあどうする。この問題は、連合にも難問をつきつけることになる。JR総連は連合加盟組合、新たに結成される組合も連合加盟を申し合わせている。JR総連は全通とならんで連合のもっとも弱い環だ。八〇〇万連合も発足二年めにして「七六〇万連合」に数が減った。不況の波は連合最大手の自動車、電機におよびつつある。

労働組合激動の背後にはかならず数の問題がひそんでいる。連合の基本路線は「合理化」大賛成。これでは景気後退下数はふえぬ。組織人員が七五〇万を前後する事態になったとき、政治大好きの上り路線にJC系組合がどう反応するか、じつに興味ある点だ。

地労委一〇三連勝

第二。地労委一〇三連勝だ。このことの意味は下級審がすべて国の政策を批判したという重大な意味をもつ。最高審の中労委も「一〇〇パーセント国労勝利」のこれら命令を無視することはできない。しかし従えば国家機関が国を批判することになる。逆に地労委命令とまったく違った判断をすれば、これまた社会問題となる。中労委はこうして身動きできないところに追い込まれている。命令回避に血眼になる真の原因である。

中労委をめぐる動きも、国鉄闘争が新たな段階に入ったと同様、おそらく変化していくだろう。国労の動向を中心に労務政策破綻の度合、そして景気後退による事業の推移、さらには証券・金融恐慌の波及度にもしっかり注目していくことが必要だ。

闘争団の長期展望

第三。闘争団が自活体制をほぼ確立したことだ。国鉄闘争はたんなる企業内の労使問題ではない。自民党政治の根幹をなしてきた臨調行革路線とのたたかい、つまりきわめて政治的なたたかいだ。これが解決を困難にする最大の要因だ。長くなることもある、もうすでに長い。人材活用センター、清算事業団、そして第二のクビ切り……、国鉄労働者はすでに六年以上もたたかっているのだから。

長いたたかいへの備えも始まった。事業部、退職金の組織的運営、プール制といった組織内中心の備えから、山田洋次、鎌田けい氏らのよびかけによる「デール基金」のとりくみも始まった。ひろく社会に、十億円ちかくの基金をよびかけ、不慮の災難に備えようという画期的なとりくみだ。

景気後退が長びけば、国鉄労働者のようにたたかわなければならぬ労働者がふえるのも必至の情勢だ。こうして国労および闘争団の仲間のたたかいは県評センター、地区労センター解散が日程に上った現在、社会党の各級議員とともに、新たなたたかう拠点となる。

すでに破綻の諸政策も

第四。JRの動向にケチがつくばかりか、すでに破綻した諸政策がゾロゾロでてきたことだ。

まず株式上場は完全に破綻した。日経平均が一万七〇〇〇円を割り込んだ現状では、株式上場の見通しは皆無だ。「政治介入排除の仕組みづくり」が民営化だったのだから、株式上場ができないかぎり、国鉄「改革」は未達成となる。これは職場が想像する以上に、支配者たちには深刻な問題だ。

次に新幹線保有機構を、株式上場を促進したいとの理由から廃止し、鉄道整備基金をつくったことだ。このことは、政府がすすめた「分割・民営化」がいかに稚拙でその場かぎりにすぎなかったかを示す。

しかも、他方で新たな矛盾もはらんでいる。新幹線設備を買ったことでJR三社（東、東海、西）の借金はふくらんだ。それだけ利払いがふえる。しかも景気は後退。財務体質悪化が必至となることだ。

鉄道整備基金は一兆円。その利子は七パーセントとして七〇〇億円だ。不況対策、自民党支持基盤の動揺をおさえるため、整備新幹線四線が一挙に着工となった。それにリニア、ミニ新幹線等々。新幹線建設に七〇〇億円でたりするのか。財源はどうするのか。上越、東北新幹線での愚がまたぞろくり返されることになりそうだ。

さらに、二五兆円の債務返済計画がすでにのべた理由から完全に破綻したことだ。発足時からわずか五年で債務は二兆円ちかくもふくらみ、今年度末には二七兆円になることがすべてを語る。

その他、北海道、九州、四国会社と本州三社の格差、格差是正のためにさらにローカル線が切り捨てられている現実、第三セクターの経営の破綻も明らかだ。

過去五年の収支決算のあらましは以上のとおりだ。「分割・民営論者」は、「完成まであと五年必要」とのたまわく。彼らには気の毒なことだが、あと五年で「分割・民営化」が失敗だったことが、天下周知の事実となるう。

資料1 国労音威子府闘争団（九二年四月二日）

全国大会方針の実践を求める意見書

三月三十一日、中労委三者懇談会は、昨年十二月二十五日の中労委会長発言見解に基づいて、会長発言なるものを発表した（本誌第五〇三号参照）。しかし、その内容はこの間我々が求めてきた内容となっておらず、不当労働行為の救済機関としての中労委の責任と権限を発揮しないまま、無責任な態度を繰り返しているにすぎない。

この会長発言に対して、国労中央本部は「中労委会長発言に関する声明」を発表した。しかしその声明は、第五六回全国大会方針の「JRが依然として不誠実な態度に終始し、事情聴取を繰り返すだけで中労委が責任ある対応を行わず、和解による解決が困難となった場合は二度目の冬を越す事なく直ちに命令を交付せよとの全国的な運動を展開する」と決定。「年内に地労委命令に基づく解決がはかられないときは、直ちに採用差別事件の早期救済命令を求める闘いを展開する」旨の決議と異なる内容のものである。全国大会方針は国労の基本的態度であり、声明は到底受け入れがたい内容である。

この間の中労委における経過を分析するとき、中労委は労働者権利救済機関としての責任と権限を発揮せず、「九・四石川会長発言」や「一二・二五中労委見解」で明らかのように国労対策に終始している。さらにJR会社の態度は「当事者適格無し」と二三条を盾に居直り続けていることから、国労の毅然たる態度を決断する時期である。

また、政府・自民党においての奥田運輸大臣の国会答弁（十二月四日 衆議院運輸委員会、十二月十七日 参議院運輸委員会）とは異なる不当労働行為棚上げの雇用問題のみでの決着という姿勢を貫いている。

我々闘争団は、この間全国三六闘争団と統一し、全国大会方針を実践すべく自前で全国キャラバン・座り込み行動・全国オルグ等、様々な行動を取り組み、中央・地方で運動を集中的に展開して来た。そして、これらの闘いを通じ、組合員・家族が大きく成長し、二度目の冬を乗り切り、闘いの確信と闘い続ける自信を深めあってきた。この間の「慎重に行くべき」という国労の姿勢が、逆に解決の引き伸ばしを許す結果となったことを我々はしっかりと反省すべきである。

中労委で結審してから三年以上が経過しているが、中労委の責任と権限を発揮させ、本来の和解作業を行わせるためにも「命令」を出せと迫るべきであり、命令を求める大衆闘争を背景に和解交渉に望むことが敵を追い詰めることである。

二月七日、国労中央委員会において解決要求骨子「地労委命令に……採用すること」を

決定し、三月六日に中央労働委員会に申し入れた。この要求は、長期にわたる国労攻撃の中で、生活事情で国鉄を去らざるを得なかった者や国労闘争を強めるために広域採用に応じた者、さらに不幸にも自殺に追い込まれた者や闘い半ばにして他界した者など、今日まで悩み苦しみながら闘い続けている仲間の共通の要求であると確信する。

今こそ国労方針を具体的に実践し、国労の解決要求を勝ち取るためにも闘争を強め、長期に闘い続ける体制を確立して行くことが最も重要と考える。

我々国労闘争団は、今日まで悩み苦しみながら闘い続けて来た組合員と家族、JR職場で苛酷な労働条件の中で頑張っている仲間、そして全国各地で地労委命令完全履行を求めて闘っている仲間と共に連帯し、団結して闘いを続ける決意である。

①全国大会方針に基づき、中央労働委員会に対して採用差別事件の速やかな救済命令の交付を求めること。

②採用差別事件の速やかな救済命令を求める緊急署名活動を展開すること。

③このことは、中央労働委員会での全面一括解決を否定するものではなく、JR会社を追い詰め、中央労働委員会での解決を一層促進するものと確信する。

④国労解決要求を高く掲げ、大衆闘争を強め、長期闘争の確立と具体的運動を中央・地方で展開すること。

国労本部執行委員長 永田稔光殿

資料2 闘争体制強化に向けての討議資料（案）

国鉄闘争も「重要な局面」に突入し、とりわけ「採用用差別事件」を突破口としてJR不当労働行為事件の全面一括解決を勝ち取る闘いも、昨年一二月二五日の中労委見解以降大きな正念場を迎えています。

私達国労闘争団組合員・家族、そして国労として「地労委命令に基づき早期に納得した解決」を実現するためにも、最後の勝利を手にするまで国労解決要求を高く掲げ、敵よりも一日長く闘い抜く強固な闘争体制を固め、「敵の嫌がる・音の出る」大衆闘争を集中的に仕組んで行くことが重要です。そのため、四月以降も闘い続ける体制を確立するにあたり、この二年間の成果に基づき、より安定した強固な生活対策が闘争継続の重要な課題です。

従って、闘争団自らが闘争を継続していくためにも、一人ひとりが抱えている具体的な生活不安を取り除き、団結を固めていくあらゆる対策を講じていきたいと考えています。

今日まで、国鉄闘争支援中央共闘会議を中心に全国の仲間の援助で取り組んできた成果を十分に確認し、当面する『傷病災害基金（通称DLRⅡデール基金）』設立に努力し、新たな基金制度として『就学援助基金』設立に向けての実態調査を実施し実現させたいと考えています。

《この間の体制確立》

1. 生活事業センター発足

全国「三六闘争団の物販を全国統一していく」ことで九一年五月二九日発足。具体的には、

夏季物販からスタート。現在、スタッフ（要員）や作業・生活環境など課題もあるが、全国三六闘争団と闘いを支え切る体制になりつつある。

2. 全国互助会制度確立

闘争団団員の病気や怪我に対する見舞金制度として九一年七月一日発足。当初は、貸付け制度も含めて検討したが基金の問題で見舞金制度で進めざるを得なかったが、全国三六闘争団が具体的にお互いに支え合う体制となり得ている。

3. 退職金利息活用

各地方本部ごとではあるが闘争費・基金・生活費補填などの活用でスタート。当初は、全国統一化による運用として議論を進めたが実態・条件・団結形成などの問題もあり各地方本部対応となったが、敵の脅威になり得る体制となっている。

《現状の設立準備》

1. 傷病災害救済基金

国鉄闘争支援中央共闘会議が全国の労働組合に呼び掛け九二年七月発足を目標に進められている。

この基金は、闘争団員が病気や怪我で働けず無収入となった場合、健康を取り戻し収入を得ることが出来るようになるまで、毎月基金から一定額の生活補助を行うものです。また、団員の死亡に対して遺族に一定期間の生活補助を行うものです。

このことにより、健康管理と併せて病気や怪我対策と休業時の生活対策が確立し、組合員と家族の不安も解消されることとなります。

《今後の体制確立に向けての調査》

1. 就学援助基金（仮称）

長期にわたる闘争の継続で子供の成長に伴い教育対策も重要な課題です。闘争団であつても、子供の希望を出来る限り適えてあげたいと思うのは当然であります。

そこで、小中学校入学時や高校大学進学時に基金から一定額の援助をすることで親としての不安を取り除くことになり、子供の希望も実現することが出来ると思います。

全闘争団で該当する子供の実態調査を行い討論を強め、国労として制度化に向けて努力して行くことを求めて行くものです。

◎ 具体的には

① 現状（九二年四月段階）の該当者状況

○ 種別 ↓ 小中学校入学者・高校大学進学者

○ 経費 ↓ 必要経費（授業料・入学金・部活費・修学旅行・交通費・制服・居住費など）

② 今後の該当者状況

○ 該当者氏名・年齢・性別（闘争団名・団員名）

○ 該当者種別（一番近い入学・進学を記入）

※この資料（案）は国労旭川地方闘争団連絡会のなかで論議されているものです。

◇「社会通信」五百号に寄す◇

統一戦線を求めて歴史は動く

京都総評オルグ 稲村 守

社会通信は五百号を迎えた。『社会通信』が七七年創刊以降はたした役割は、社会主義協会・労働大学・社青同を労戦・国鉄・党強化の闘いなどの左派戦線につなぎとめたということである。これは向坂逸郎先生の「置きみやげ」であり、滝野社長御夫婦の努力であり、三者の歴史に残る「合作」ともいえる。（と、まあ重要なしかも物議をかもしそうなことをさらっと書いたが、これも『社会通信』らしく表現したつもりである。）この前から笠井博徳氏や大木五郎氏がだいぶくだけで、やられているので、私も便乗する。私事ながら今秋四人目の子供が生まれる予定となった。六年前これで終わらだろうと思つて三人目の男の子ばかりだが、「逸郎」とつけたが、その子には「忠」とでもつけようか、待望の女の子なら嘉津子とでも……。

『社会通信』は情報が早くて確で、重要な資料は原文のままきちんと載っていること、主張が明確で歯に衣を着せぬこと、そして続いていることは他に類を見ないすぐれたところだ。あえて問題点があるとすれば校正ミスの目立つところだ。（この頃は皆ワープロだが滝野社長はなさらない。ワープロの転換ミスなどは、何とも笑えるものが多い。どうせのミスならワサビのきいたものたまには。）

いずれにせよ滝野社長御夫妻とは五百号のうちのこちら手前三分の二ぐらい、十一年位のおつきあいだが、社会通信なしでは今の私はありえない。

ところで京都ではこの十年来、この方なしでは自分の運動・存在もありえなかった二人の方を亡くした。林大鳳氏（八四年七月、中央・京都労研センター代表幹事、元動労中央委員長）と川口是氏（本年二月、京大教授・京都国公議長から八二年京都府知事選の革新候補に）である。川口先生の「三回のアピール」は『通信』にそのつど全文掲載いただいた。かつて林氏の追悼分も書かせていただいたので、五百号の祝賀の文に追悼文とは思つたが、ぜひこの場をおかりしたい。

八九年三月一日、私はおおかたの「社会党系」の労組・オルグ・書記と行動を共にせず、京都総評に残った。「階級的労働運動の大義」を守るために。このことは、川口先生との出会いなしでは考えられない。

私は立命館大学四回生のとき、新日本新書などで学内一注目されていた山口正之教授の国家独占資本主義論を批判する文章を学内の機関誌に投稿した。反発は予想以上で、若い助教授に呼び出され、「君の論文は社会主義協会派の立場で書かれているので、間違っているから書き直しなさい」と言われた。そこで席をけつとばして帰ってきたら、その助教授の当初の目標を達成することになるので、ぐつとこらえ、もう一つ言われた山口教授の反論掲載は承諾し、文章見直しは就職試験のため忙しいので校正の段階で、と言つて帰ってきた。結果校正刷も届かずにそのまま掲載されたが、「バカバカしいこんな大学もうやめよう」と思った。

その矢先に京都総評オルグの話が来て、一も二もなくとびこんだ。そんなキッカケでの労働運動入りだったため、かつての「京都総評主流派会議」などで「京教祖と京都国公、

特に川口アレとかコレとか言うのが頭が固くてだめだ」と言われ、先入観がこびりついてしまっていた。

八一年五月一九日、岩井章氏を招いて京都労館ホールで開いた京都における初めての左派結集集会にも、京都国公に限って呼びかけに行かなかった。今、くやんでもくやみされない思いがする。八二年知事選で、社会党の左派・心ある社会党支持労組の集会をもち、その事務局を担当したが（自民・林田現参議対革新・川口の対決。社会党府本は「反自民・反林田の自主投票」、そのときでも先生の人となりを知らなかった。八三年五月、京都労研センターを結成してからのおつきあいである。先生は人に対する仕方が直接的だった。あの楽しい議論はもうできない。

八七年「三・三一よみがえれ国鉄」、同「十一・二〇総評解散・連合発足反対」、八九年「二・一九京都総評発展・強化」と、先生の筆になる三回のアピールで、京都総評は残った。だがその後の原水協加盟提案、春闘岡山集会で日本共産党のみ呼ぶ、メーデーでの朝鮮総連排除、「全労連京都総評」から「京都労連」化構想など、先生ともう議論はできない。しかし統一戦線を求めて歴史は進む。

◇ シリーズ③ 私たちの学習会 灘資本論 ◇

資本論 第二・三章を学ぶ

灘で資本論の学習会を始めてかれこれ七年になる。今だに第一巻をうろろしているがこの秋頃は二巻に進めそうな目途がたつところまできた。毎月一回、統一地方選挙とかで飛ばした月もあるが、選挙が終るとすぐに再開することが決まっている。選挙の結果にかかわらず、散っていたレギュラーメンバーは集まってくる。そろそろ止めようかと言う契機さえ与えない、このレギュラーたちの動機がふるっている。

曰く、「老眼になるまでに一回読んでおきたい」、「死ぬまでに資本論だけは読んでおきたい」。こんなつもりで参加しているわけだから、脱落しないのもどおりであろう。脱落しないだけではない。近頃はこの常連達が「資本論の一番面白いところをやっている」、「途中からでも充分ついてゆける」等々とコピーを考えては新参を誘うものだから、とうとう、このうまいエサにひっかかって一名レギュラーがふえてしまった。これですますやめにくくなったわけだ。

不況と資本家階級

直近の学習会は、第二章資本主義的蓄積の一般的法則・第一節と第二節であった。資本の有機的構成の高度化のところである。長らく続いた景気が後退局面に入り、またざろ内需拡大論が復権しそうな情勢だけに、マルクスがここで強調している資本主義的生産の特質、すなわち「資本主義的生産においては、労働力が買われるのは、その労役またはその生産物によって買い手の一身の欲望を充すためではない。買い手の目的は、彼の資本の価値増殖であり、彼が支払うよりも多くの労働を含む商品の生産であり、したがって、彼にとっては何らの費用をも要せず、しかも、商品販売によって実現される価値部分を含む商品の生産である。剰余価値の生産、すなわち貨殖が、この生産様式の絶対的法則である。」

は強調しておかなければならない。

しばしば、この最も大事な点が忘れ去られて、景気回復を目的とした賃上げへと誘導されてきたのは、ほんの十年前のことなのである。九二春闘では、ソニーやサントリイといったエンドユーザーに左右され易い資本家から、賃上げコールがおきただけに、資本主義的生産の特質が一層ばかされていると言えるだろう。

もつとも、九二春闘の結果アベレージがどう出ようが、ソニーとサントリイの賃金が倍にはね上がるなどとは誰も考えないだろう。連合が余りに無力なために、最終消費財の在庫率が上昇した資本家が、外圧をも利用して、ちよつと言ってみただけなのであるから、敵陣中に味方を得たと思うのは気が早いというものである。

資本の有機的組成の高度化とは

ところで、今回の学習会の中心テーマは、賃上げによる内需拡大論批判ではない。「有機的構成は高度化しているか？」であった。

レポーターの用意した平瀬己之吉氏の説明によると、資本の有機的構成 $C/V \parallel C/V + M \times V/V + M$ ここで $C \parallel$ 固定資本 $K +$ 不流動資本 R であるから $C/V \parallel K + R/V + M \times V + M/V \parallel (K/V + M + R/V + M) \times V/V + M$ と書き換えることができる。この $K/V + M$ は固定資本と国民所得の比率だから資本係数と考え、同じく $R/V + M$ を原料係数、 $V/V + M$ を労働の分配率とするならば、資本の有機的構成は資本係数および原料係数に正比例し、労働の分配率に逆比例する。

資本の有機的構成を近似的にとらえてゆくわけである。

次にレポーターはギルマンの「利潤率低下の理論」から、アメリカ製造業についての資本の有機的構成、剰余価値率、利潤率の一八四九から一九三九年の表を示す。

一八四九年には二・三だった有機的構成は一八五九年二・七、一八六九年三・二、一八七九年三・六と着実な上昇を示している。

だいたいマルクスの理論活動中には資本の有機的構成は高度化していたと言える。

ところが、一八八九年には二・七に下落し、一八九九年に再び三・二に上昇したあと、一九一九年の三・八を頂点に、あとはだいたい三・二から三・七までの間を行ったり来たりという具合で、長期に見ると、資本の有機的構成は不変と見るのである。

利潤率についてもだいたい三〇％台で、傾向的低下の圧力に抗して資本はもうけを確保したことを示している。面白いのは、利潤率が四〇％台を示したのは一九二九年から三三年の大恐慌の影響を受けたボトムの時期で、この時、剰余価値率すなわち搾取率は、一八〇％台と最高を記録している。利潤率 $m/C + V \parallel m/V \times V/C + V$ だから、 C の増大による利潤率低下を阻止するためには m/V (剰余価値率) を高めなければならないという資本の動きが見てとれる。不況期に労資の力関係は資本側に有利となり、搾取率が強まり、結果、高水準の利潤率を資本は手に入れたわけであり、実に興味深い数値である。

利潤率云々については余談であった。本題の資本の有機的構成にもどうだろう。

現実の問題として、資本の有機的構成は、高度化ではなく、中立的に推移するとしたらそれはなぜなのか。

レポーターは、それをハロッド中立的技術進歩に求めている。

C/VのCについて新技術の導入によって価値減少がおこり、VにくらべてCが巨大化して行くことに制限が生じれば、資本の有機的構成は中立的となる。

この議論はマルクス経済学の限界を示したと言うより、マルクスによって与えられた礎石の上に経済学を進展させているということであり、ハイゲート墓地のマルクスのむしろ望むところだと思う。

資本の有機的構成が高度化しなければ、相対的過剰人口法則はどうなるのか、参加者の興味は、次回のレポートに注がれることとなった。

相対的過剰人口はどうつくられる

第二章第三節では、資本の有機的構成の高度化がいかに関係的過剰人口を生み出すかについて次のように説明されている。

「労働にたいする需要は、総資本の大きさによってではなく、その可変的構成部分の大きさによって規定されているのであるから、それは、前に規定したように総資本の増大に比例して増加するのではなく、総資本の増大するにつれて累進的に減少する。総資本の増大とともに、その可変的構成部分、または総資本に合体された労働力も増大するには違いないが、しかしそれは、たえず減少する比率においてである。与えられた大きさの追加労働者数を吸収するためには、あるいは、もとの資本がたえず形態変化をなすので、すでに機能しつつある労働者数を就業させるためにさえも、ますます累進的に加速度をもった総資本の蓄積が必要とされるのではない。」

この増大する蓄積と集中それ自体が、再び資本組成の新たな変化の源泉に、すなわち、資本の不変的構成部分に比較した可変的構成部分のさらに加速度をもった減少の源泉に変ずる。この総資本の増大とともに促進され、総資本自体の増大よりもさらに急速に促進されるその可変資本すなわち労働者人口の雇傭手段の増加よりもつねにより急速な、労働者人口の絶対的増加のように見える。そうではなく、むしろ資本主義的蓄積が、しかもその精力とその大きさに比例して、相対的な、すなわち資本の平均的価値増殖欲望にとって余計な、したがって、過剰な労働者人口、または追加的な労働者人口を、たえず生産するのである。……かくして、労働者人口は、それ自身の相対的過剰化の手段を、ますます大量に生産する。これが資本主義的生産様式に特有な人口法則なのであるが、実際またすべての特殊な歴史的生産様式は、それぞれ特殊な歴史的に妥当する人口法則をもっているのである。」

さて、資本の有機的構成が中立化した場合には、この相対的過剰人口の創出は中断されるのであろうか。

レポートは、相対的過剰人口は、資本制生産様式の存在条件であることを強調する。

それは、「替わりはいくらでもある」という就業労働者への圧力として資本が必要としているだけでなく、事業の突発的膨張のために労働力を充用するためのプールとしても必要とされている。

ところが、失業の増大は、政治的不安をも増大させるから、社会主義の急速な伸張を危惧した資本は、第二次世界大戦の戦後処理を方針化する際、ケインズの政府介入による完全雇用を実験した。すると、失業率ゼロのもとで労働運動は活発化し、一九六〇年代には、

西欧で賃金爆発とも呼ばれるような大幅賃上げがおこり、資本家のケインズ人気がいっきにさめてしまった。代わって、フリードマンが、自然失業率なるものをもって登場し、以後、完全雇用とは、自然失業率水準のことをさすようになった。マスコミで、完全雇用状態というのは今では、この自然失業率の状態を指し、アメリカでは5%くらいの失業率を、そう呼ぶ。

資本に必要不可欠な相対的過剰人口は、資本の有機的構成中立化の中で創出できるのか。レポーターは、まず、雇用労働総数が増えたとしても、新技術の導入によって労働の遊離は成り立つと言う。資本の有機的構成は高度化しているのである。

大企業ではゼロマン運動

学習会参加者の体験が交流されてゆく。川崎製鉄ではゼロマン運動が展開され、巨大な工場をきわめて少数の労働者で動かしている。会社は、もはや工場の生産ラインでは合理化するところがない、残るは事務部門の合理化だと言い切る始末で二〇年前にくらべると社員数は半減して一万数千人になってしまった。

先日、自治会の役員を交替してもらうために地域をまわった社会党員がびつくりしていたことがある。近くの工場長をしていた人は転勤で東京に飛ばされ、大阪にもどって支店の次長になっていたが、休日も接待ゴルフで、休まる暇もないと言う。またある人は、出向で中国に出され、帰ってきたら、また東南アジアに出され、そこから帰ってきて、また出されようとした。頭にきて、会社をやめたら、妻が相談なかったと怒り離婚になった。もう一人は研究職だが、事務補助員の削減で、日中の実験結果を夕方からワープロ打ちしておかねばならず、毎日の帰宅が遅くなる。もちろんサービス残業だが、ということ、みんな自治会役員をこわってきたという。

「まなぶ君」という名のロボットも

学校の先生はまさかロボットにとつてかわられることはないだろうなと質問してみると、意外にも「まなぶ君」というロボットができているそうで、これが発達すると、子供がロボットに教育される現場というものができそうだということであった。いつぞやの新聞では、電機関係の完全無人化工場もできたということであるから、技術的組織の高度化による過剰生産力の創出はあちこちで進んでいると言えるだろう。

また、レポーターは、有機的構成不変の技術進歩でも、一定率の過剰人口は作り得るとして、次の説明を加えた。仮に人口成長率を○%としても、生産手段の量が二倍となった時、生産手段生産の労働生産性が二分の一となると、生産手段の投下労働総価値Cは不変だから、有機的構成が不変なら、この場合の就業労働者数も不変であり、それ以前の失業を吸収することにならないので、失業率も一定となる。

こうして、このレポーターの灘資本論研究会での最後の講演は終わった。四月から、レポーターは九州のさる大学で過激な講義を始めるそうで、灘にとつては今後、質問しても答える人のない状態が避けられそうにない。九州に頭脳輸出して、「貿易赤字」が問題になりそうである。

(神戸・F)

◆ 投 稿 ◆

資本主義と社会主義

ソ連・東欧問題から考える

実は妊娠しているのです。

誰がって？

資本主義がです。

何をはらんでいるかって？

社会主義をです。

予定日はいつかって？

それは現代の「医学」では、はっきりと指定はできません。何十年後かも知れませんが、何百年後かも知れません。でも、妊娠していることは確かなのです。何百年後と云うと、ずいぶん先の話ではないかと思われるでしょうが、人類が地上に登場してから、かれこれ五〇〇万年ですから、そう考えると、とても未来でもありません。

幼な子を残して

今から七五年前、社会主義ソビエトは、ロシアの胎盤を蹴つとばして、誕生してきました。超未熟児でありました。ロシアの「兄弟」たち、つまり、ソビエトのおじさんやおばさんたち、すなわちイギリス、フランス、日本等はどこの馬の骨だか解らないソビエトを「認知」しようとしませんでした。おじさんやおばさんは、ソビエトが「戸籍登録」する前に、いやがらせ（軍事干渉）をして抹殺してしまおうとしました。

ソビエトは、おじさん達のいじめに耐えて、なんとか生き延びました。しかし、ソビエトの境遇はけつして恵まれたものではありませんでした。近代設備の整った病院ではなく、馬小屋で生まれた様なものでした。ロシアでは、資本主義は充分に発達していませんでした。小ブルジョア経営が優勢でした。国民の圧倒的多数が文盲でした。そこで隣家のドイツに援助（革命）を求めようとしたが、それも、かなわぬ夢でした。

やむなくレーニンは、独力でソビエトを育てることを決意しました。レーニンかあさんは、小ブルジョア経営が優勢なソビエトに、新経済政策（ネップ）という「ミルク」をあてがいました。ソビエトはすくすく育つかにみえました。しかしそんな折、レーニンかあさんは死んでしまいます。幼な子を残して……。

性格が歪んで成長

レーニンの後を継いだのが、スターリンでした。継母スターリンは、あまり「子育て」に向いた人ではありませんでした。継母スターリンは、いやがるソビエトから強引にネップという哺乳瓶を奪い取って、いきなり離乳食を食べさせました。ソビエトは食傷気味でしたが、スターリンに従うよりありませんでした。

スターリンのいびつな教育によってソビエトはやや性格が歪んで成長してしまいます。

ソビエトは東欧にできた「息子たち」には、スパルタ教育をしました。ソビエトは息子たちを「ソ連型社会主義学校」へ強引に入学させました。かつてハンガリーやチェコは「ソ連型社会主義学校」の厳しい校則に耐えきれず、「辞めさせてくれ」とソビエトに懇願しましたが、頑固おやじのソビエトは彼らに鉄拳で答えました。

しかし、結果的には、東欧の息子たちは、みんなソビエトに三くだり半を突きつけて「ソ連型社会主義学校」を中退しています。東欧の息子たちはソビエトにとって不肖の息子でした。でも、それも仕方のないことです。親が親でしたから。

そしてついに、当のソビエト自身が死んでしまいました。思えば不憫な生涯でした。未熟児は、結局、健全には育たなかったのです。

胎児は大きく成長

現代の日本は、ロシアがソビエトを産み落とした時よりは、妊娠は進行しています。資本主義のおなかの中で胎児はすいぶん大きくなっています。また、ロシアはソビエトに残す遺産はあまりありませんでした。ソビエトは遺産相続はしたものの借金の方が多かったのではないと思われます。現代の日本の場合、かなりの遺産があります。

物質的生産力は上昇しています。生産の社会化はいつそう進んでいます。協業、分業の技術的適用はいつそう進みかつ広まっています。技術革新は日毎に進んでいます。工業はいうに及ばず、テクノロジーによって農業の質そのものが変わりつつあります。これらは直接的生産の領域を越えて、行政や流通の分野に及んでいます。胎児は着実に成長しています。

ただし、妊娠には正しい処置と指導が必要です。この胎児に良い影響を与える産婦人科の役割をするのが、階級政党や労働組合です。(近頃いかかわしい産婦人科が多いので注意)階級政党や労働組合が胎教(労働者の組織化、主体的条件の確立)を、いずれ出産(革命)に関わり、育児(社会主義建設)をしていかなければなりません。

今度生まれくる「子ども」こそ、大事に健やかに育てたいものです。「子供」には人類の未来がかかっています。かつてのソビエトのように「馬小屋」に産み落とすようなひもじい思いはさせたくありません。

私たちは、つね日ごろからお産や育児の準備をしておく必要があります。教材はいろいろありますが、例えば、「資本論」という「高等育児書」があります。焦らず、じっくり学んでいく必要があるでしょう。

最初の「子供」(ソビエト)が死んでしまつて、なんだか旗色が悪くなっているように感じています。最も有能な産婦人科医だったレーニンが次のように云っています。

「マルクス主義は、官許の科学がそれを『絶滅』するたびに、ますますつよまり、きたえられ、生き生きしたものになっていく」

(中野・T)

◇ 読者からのおたより ◇

もっと鋭く大胆に 五百号おめでとうございます。いつも歯に衣をきせぬ文章を楽しく読んでいます。そして活動の指針にさせていただいています。こんな情勢ですから、今後はもっともっと鋭く大胆な社会通信をお願いします。
(新潟・三人組)

紙ひとえの選択を送って 五百号おめでとうございます。毎号楽しみに待っています。「紙ひとえの選択」二冊申し込みます。
(山形・H)

まなぶ講演会開く 二月二八日「まなぶ講演会」があり、講師に坂牛さんと呼んで開催されました。ひじょうに簡潔で解り易く講演をしていただき、みんなにたいへん好評でした。とくに講演会後の交流会では「ウラ」の話までしていただき、考えさせられるところ大でした。これからの労働界↓参院選挙にむけての候補にはPKO反対をふくめ、きちんと本人との公約が必要、さらに連合候補にはとくに、との発言が印象的。
(帯広・S)

町議選に当選 私の町議選を三月にたたかい、おかげで三期めは無投票当選をしました。田舎ですので定数十三名、社会党は私一人で、あとは保守・無所属です。三七歳の若さでがんばります。
(広島・M)

がんばります 中央総評センターの解散問題や参議選など重要なたたかいがあります。精一杯がんばります。
(高知・D)

レーニンについて知りたい 「反動聖職者と反動ブルジョアをできるだけ多く銃殺せよ」という内容の、モロトフへのレーニンの手紙が公開されているらしい、テロへのレーニンの態度なども含め、レーニンの評価についての率直な研究論文を知りたい。(三鷹・J)

権利の全通再生をめざす この職場でも状況は厳しくなっていくばかりですが、その中でがんばっておられる方がいらつしやるのは心強い限りです。「権利の全通」と言われた頃の強さが、現在もっとも必要なのではないでしょうか。
(人吉・A)

具体的行動提起も 先日どこかで活動家がいちばん元気をなくしているとの一文を目にしました。「通信」等にある情勢の見方を自分の職場や仲間との交流と照らし合わせて考えるしかない時期だと思います。いろんな状況や現状を分析した提起されているのが、たいへん参考になっています。意志統一をはかり社会党をはじめ、もっと具体的な集中点や行動の提起ができないかと思うのですが。
(神戸・K)

編集部より おたよりありがとう。Kさんのおつしやるとおりです。今必要なことは焦点を明らかにし、具体的に行動することです。憲法、人権が焦点と思うのですが。
聞いてつづける 職場は資本の常識、当局の都合が絶対視されつつあります。聞いてにくい条件もつくりだされていますが、闘わざるをえない実態が一方で着実につくられています。人間らしく働きつづけ生きつづけていくために、仲間とともにがんばっていく決意です。貴誌の発展を祈ります。
(北海道・全通M)

記事送ります 定数抑制・賃金抑制、しかも「時短」という中で、法を守る「役所」で非常勤の勤務日数増や「応援」、アルバイトの連続勤務月数の大幅延長などが、「職場要求」さらには「組合要求」にすらなっています。労働法の暴力的破壊といっても過言ではありません。また保育園では閉庁なき時短にともない、保母や用務員が「給食」をつくり始めています。いずれ調査を深めて記事を送りたいと思っています。
(世田谷・N)

◇おしらせ◇

『社会通信』五百号記念のつどいについて

第五百号に掲載した笠井氏の文章にもありましたが、岩井章（国際労研会長）、坂牛哲郎（元都高教委員長）、永田稔光（国労委員長）、三木信之介（私鉄総連・東武労組副委員長）氏のおよびかけで、『社会通信』五百号突破を祝うつどい」をおこなっていただくことになりました。

「労働運動の階級的強化をめざして、職場・地域で連日奮闘されている仲間の皆さんに心から敬意を表します。

さて『社会通信』は労働運動をめぐる情勢と課題についての確な情報を全国の仲間伝える上で大きな役割を果たしてきました。ソ連・東欧の社会主義の解体という事態のもとで、社会主義再生の展望を明らかにするためにも、また、国鉄闘争をはじめとする「闘う労働運動」を再建するためにも、正確な情報と指針を示す『社会通信』の役割はますます大きくなっています。

以上の趣旨で『社会通信』五百号突破を契機に、いっそうの発展を祈念してこれをはげまし、あわせて学習討論の機会をもちたいと思います。ぜひご賛同いただき、ご出席をお願いします。

記

一、日時 一九九二年五月一日（土） 午後三時～午後七時三〇分

【第一部】講演会とフリー討論会 午後三時～午後五時三〇分

【第二部】祝う会と交流会 午後五時四〇分～午後七時三〇分

二、会場 日本教育会館（東京都千代田区一ツ橋二一六二）

【第一部】日本教育会館9F「扶蓉の間」

【第二部】同2F「ゴールド」

※TEL 〇三―三二六二―七六六一

委細は笠井博徳（日教組）〇三―三二六五―二一六五、早田昌二郎（国労東日本）〇三―三二一五―五四四〇、両氏にお願いします。

国鉄闘争の原点を問う記録!! 好評発売中

紙ひとえの選択

国労鹿児島「一万分の一の記録」

桐原 浩 著 社会通信社編

国労鹿児島「一万分の一の記録」がいよいよ単行本として出た。本づくりにとくりくんで「一万分の一」とは何だという質問を受けることが多かった。私は、言いたいことの一万分の一のことだ、著者の桐原さんに聞いてみたら、いろいろあったことの一万分の一ということであった。

今、激動の時代といわれる。何を選択するか、日常生活の中でも悩み、苦しみ、ギリギリの選択が問われることが多い。この本は仲間の会話をたくさんつかい、鋭い洞察力で実名を使い個性をいかしてかいてあり、実に興味深い。

正念場を迎えた国鉄闘争にとって、もう一度原点を問い直す記録でもある。ぜひ一読されひろめてほしい。

◆内容◆

ひろがる不安と動揺 国鉄からJRへ 一九八七年二月一六日 清算事業団 地方労働委員会闘争 一九九〇年三月三十一日 闘争団、三年目のたたかいへ 資料

◆四月十日刊／B六判二〇〇頁／頒価千円／郵送料一部二一〇円、十部以上郵送料当社負担